

# 郷土研究

# 岐阜

## 第142号

### 庶民が主役の近代史を 自由民権百五十年に思う

津田 正夫

「信長公一色」の岐阜公園の片隅に、明治一五（一八八二）年、ここで暗殺された自由党総裁・板垣退助の銅像がひっそりと佇んでいる。板垣の重要な功績は明治七（一八七四）年、後藤象二郎、江藤新平、副島種臣らとともに「民権議院設立建白書」を政府に出し、自由民権運動をひげ、近代国家の基礎となる憲法制定と国会開設の実現だろう。この板垣を暗殺しようとした事件が、皮肉なことに民権運動を爆発的に全国に広げたのだった。

岐阜の自由民権史をたどると、「岐阜新聞」を発刊し「濃飛自由党」を創って板垣を岐阜へ呼んで運動を率いた自由党系の岩田徳義、「酒屋会議事件」の村山照吉、「不敬罪事件」の後藤秀一、「静岡事件」に関わった教育者、小池勇など多彩な人々がいる。しかし現在の学校教育では、自由民権や激化事件など民衆の歴史も、殖産興業・富国強兵などの近代史もほとんど教えない。なぜだろうか？

東海の自由民権運動を先導した旗頭は自由党系の内藤魯一だが、「名古屋事件」、「美濃加茂事件」という激化事件を率いたのは、復古主義の「愛国交親社」だった。かつて足軽だった庄林

一正らは、尾張・美濃の下級士族や農民、博徒、都市細民らを組織した巨大な武装結社を作って、秩祿の復活、士族への編入などを求めた。本誌での若井正さんやその師・長谷川昇さんの研究が、その「異様な民権運動」の内実を詳らかにしている。

私は郷土史にも自由民権にも疎い単なる放送人だが、国会開設の勅諭が出され、自由党結党から百年になった一九八一年、NHKで長谷川昇さん（当時・東海女子短大教授）を招いて『東海・自由民権始末』を制作・放送した。このとき「愛国交親社の岐阜支部が（美濃）加茂事件を起こした」とお聞きしたことが長く気になっていて、近代を形作ったさまざまな真相を追って、同人誌『追伸』（風媒社刊）に「美濃の自由民権を訪ねて」を連載してきた。明治革命の主役としては教科書や映画に登場しない、無名の百姓・町人・芸人・女性たちはどう生きたのか？ いわば近代史の「サブカルチャー」だったへ庶民の自由民権」というテーマが、私

の中でだんだん大きくなってきた。ところで私自身の曾祖父は、栃木県谷中村の村長だったが、足尾銅毒事件

で村を潰された村民たちを率いて北海道サロマへ追われ、辛酸をなめた。古河財閥による足尾銅山は、近代国家を作った殖産興業の典型だった。思想家・田中正造はこれを批判して称賛されるが、村を追われた農民たちは長らく「裏切り者」扱いされてきた。歴史の語られ方がいつも英雄・豪傑が中心で、民衆が不在であることに私は強い疑問を抱いて自分のファミリーヒストリーとして事件を見直してきた。こうした素朴な追跡を、去年『百姓・町人・芸人の明治革命 自由民権150年』（現代書館）として上梓した。

今年、自由民権運動が始まって百五十年目であり、「立憲社」が生まれた土佐をはじめ各地で近代を見直すイベントや展示も相次ぐ。これを機会に現代にも根深く残る身分制、家長長制、古いイデオロギーを超えて、市民・民衆の側から近代史を検証したいものだ。（元立命館大学教授、『追伸』同人）



今年、自由民権運動が始まって百五十年目であり、「立憲社」が生まれた土佐をはじめ各地で近代を見直すイベントや展示も相次ぐ。これを機会に現代にも根深く残る身分制、家長長制、古いイデオロギーを超えて、市民・民衆の側から近代史を検証したいものだ。（元立命館大学教授、『追伸』同人）

- 128 (23・10) P 5・7  
 木曾三川のケレップ水制 第一編  
 明治改修におけるケレップ水制  
 KISSO 129 (24・01) P 5・7  
 近年の牧田川沿川の水災害対策  
 KISSO 130 (24・03) P 3・4  
 木曾三川のケレップ水制 第二編 ケ  
 レップ水制の機能と役割 KISSO  
 130 (24・03) P 5・7  
 高山別院照蓮寺の石垣(1)―金森時代  
 の石垣はあったのか― 岩田修 斐  
 太紀 34 (24・04) P 200・209  
 関ヶ原の城「松尾山城・玉城」 富  
 田真一郎 関ヶ原の歴史 390 (24・  
 03) P 1・4  
 奥飛騨地方における堀切 馬場廣幸  
 飛騨の中世 14 (23・11) P 52・69  
 美濃格の安定生産と品質評価に関する  
 研究 第一報 浅野良直 佐藤幸泰  
 立川英治 岐阜県産業技術総合セン  
 ター研究報告 4 (23・10) P 45 48  
 満州の開拓団は入植地によって大きな  
 差が出たか? (一) 馬淵夏修 濃  
 飛の文化財 63 (24・02) P 62・68  
 ―幕領飛騨林業史の再検討― 福井  
 重治 斐太紀 34 (24・04) P 64・72  
 東海道新幹線の建設と岐阜羽島駅開業  
 を検証する 平井正春 岐阜地理  
 67 (24・03) P 19・28  
 美濃焼の生産・輸送と木曾川 KISSO  
 129 (24・01) P 3・4  
 東海環状自動車道と西濃地域 ―近つ  
 く西回り区間全線開通― 中村紘子  
 レポート (OKB 絵研) 192 (24・01)  
 P 3・8  
 飛騨の乗り物黎明期史料集 その4  
 金子暁男 斐太紀 34 (24・04) P  
 152・166  
 芸術・言語・文学  
 絵本作家・わかやまけんの岐阜時代か  
 ら紙芝居制作、図書館活動と教育に  
 ついて 鳥羽都子 岐阜県美術館年  
 報・研究紀要 7 (24・03) P 108・117  
 ふるさとの山と校歌(伊吹山・養老山)  
 神戸孝司 輪之内学研究 13 (24・  
 04) P 28・39  
 岐阜県の雅楽について1 ―1300  
 年前に演奏された雅楽―長瀬公昭  
 斐太紀 34 (24・04) P 25・38  
 乗鞍岳小史3 乗鞍岳飛騨側にあつた  
 山小屋のこと 木下喜代男 斐太紀  
 34 (24・04) P 137・151  
 岐阜県方言資料に見られる指定辞 山  
 田敏弘 岐阜大学教育学部研究報告  
 人文科学 72・1 (23・10) P 11・20  
 農具「タチカキ」類の名称と形状 山  
 田敏弘 岐阜大学教育学部研究報告  
 人文科学 72・2 (24・03) P 1・10  
 飛騨の現代文学(三)―志田石高の「山  
 家慕情」とその時代― 黒柳大造  
 斐太紀 34 (24・04) P 102・112

【事務局より】

◆複製資料(有償頒布)のご案内  
古地図の世界Ⅱ「関ヶ原の戦い」

(A4判 カラー 33頁)



令和二年度に岐阜県古地図文化研究  
会と共同で作成・発刊し、好評を博し  
た図録の再出版です。

本図録には、合戦図や絵巻等が収め  
られており、古地図や絵図で「関ヶ原  
の戦い」を展望することが出来ます。  
特に合戦図には、「関ヶ原の戦い」の前  
哨戦である「岐阜城の落城」や「米野  
の戦い」「竹ヶ鼻城の戦い」「杭瀬川の  
戦い」等が本戦とともに描かれたもの  
もあり、一枚の地図で関ヶ原の戦いの  
全体像を把握することも出来ます。

また、それぞれの戦いに出陣した東  
西両軍の武将名や地名、陣地等の記載  
があり、楽しく古地図を読むことがで  
きるように工夫してあります。

・会員頒布価格：六〇〇円  
・頒布場所：岐阜県図書館二階及び  
岐阜県関ヶ原古戦場記念館  
なお、会員価格でお求めできるのは  
岐阜県図書館のみです。

目次

巻頭言 庶民が主役の近代史を  
自由民権百五十年に思う 津田 正夫 1  
西濃の御嶽祭の流行 清水 進 2  
その一 松尾 隆 7  
資料その五 松尾 隆 7  
全国みんげん連第三回江村栄一賞授賞と  
近著『自由民権義士岩田徳義』・「ちよん  
髷隊長庄林 正二と愛国交親社」について 若井 正 13  
新刊紹介 茜部郷土史第二章近現代  
(第一―六節) 黒田 隆志 16  
地区情報  
郷土関係新刊書目録 (飛騨) 茂任 修史 19  
郷土関係逐次刊行物文獻目録 20  
25

郷土研究・岐阜 第一四三号  
 令和6年9月20日 発行  
 編集・発行 岐阜県郷土資料研究協議会  
 (会長 早川万年)  
 岐阜市宇佐四二二一 県図書館内  
 電話 〇五八―七五―五二二一  
 FAX 〇五八―七五―五二二五  
 E-mail kyoshike@library.pref.gifu.jp  
 銀行振込 大垣共済銀行県庁前支店  
 (普) 2899660  
 郵便振替 00860-0-41220  
 普通会員 28000円  
 年度会費 賛助会員 40000円  
 (印刷 浅野印刷株式会社)